

「健康支援型配食サービス」



マッチングの実践

Matching

～地域高齢者等の健康の維持と改善へつなげるために～

Q1 健康支援型配食サービスに取り組むのはなぜ？

A1 地域高齢者等の健康を維持・改善し、健康寿命延伸につなげるためです。

- ① 食への意識・行動の変容、食の安定性、食事のセルフケアが充実し、生活の質の維持・向上が期待できる。
- ② 地域高齢者等の栄養課題の早期発見と課題解決に結びつけることが可能となる。

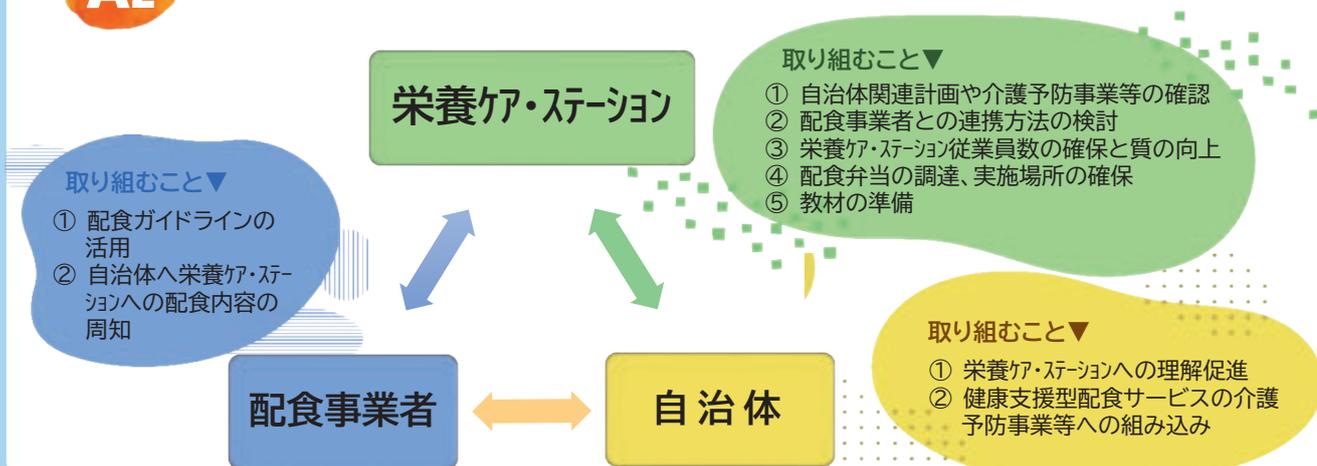
- 急速な高齢化の進展により、生活の質(QOL)の維持・向上を図る観点はもとより、医療費や介護給付費等の社会保障費の増大を抑制する観点からも、**健康寿命の延伸が重要**です。
- そのためには、生活習慣病の発症予防及び重症化予防を図ること、特に地域高齢者等においては、**低栄養状態を予防又は改善し、適切な栄養状態を確保**することが必要不可欠となります。
- 健康な社会環境づくりとして、地域高齢者等の食生活を支援する手段の一つとして、**健康支援型配食サービス**の果たす役割は大きいといえます。
- 「健康寿命延伸プラン(令和元年5月29日)」においては、地域の共食の場やボランティア等も活用した、適切な栄養管理に基づく**健康支援型配食サービス**を推進し、地域高齢者の低栄養・フレイル予防にも資する、効果的・効率的な健康支援につなげることが求められています。



解説動画はこちら

Q2 どのようなことから取り組んでいけばよいですか？

A2 栄養ケア・ステーション、自治体、配食事業者の連携を深めましょう。



配食事業者 ができること

配食ガイドライン^(※1)を活用する

活用のポイント

- ① 適切な栄養管理ができる体制で、商品管理を行う。献立作成、調理、衛生管理等の体制を整える。
- ② 利用者の状況を適切に把握した上で、利用者に合った食事を提供する。配食注文時のアセスメント(身体状況、栄養状態等の情報収集)と、配食継続時のフォローアップが重要です。

(※1) 地域高齢者等の健康支援を推進する配食事業の栄養管理に関するガイドライン
URL: guideline.3.pdf (mhlw.go.jp)



解説動画はこちら

自治体 ができること

栄養ケア・ステーション^(※2)への理解を深める

- ① 栄養ケア・ステーションの設置状況や活動内容を知る。
- ② 地域高齢者の健康支援のために栄養ケア・ステーションとの連携方策を検討する。

健康支援型配食サービスに取り組む

- ① 介護予防事業や一体的実施等への導入方法を検討する。(キーパーソン、ターゲット層、実施場所等)
- ② 栄養ケア・ステーションと連携し、教育人材を確保する。
- ③ 配食事業者と連携し、栄養バランスのとれた弁当を調達する。



解説動画はこちら

Matching

栄養ケア・ステーション ができること

栄養CS→自治体
通いの場でのフレイル予防教育や
個別栄養相談の実施

健康支援型配食サービスには、「基本型」「共食の場提供型」「配食事業完結型」の3タイプがあります。具体的な取組み方法については、「栄養ケア活動ガイド」「栄養ケア活動マッチングガイド」をご覧ください。

基本型

地域高齢者の通いの場
サロン・老人いこいの家等
(公民館、民間施設等)



人材の供給・参画
利用者の状況把握
健康管理支援等



管理栄養士等
栄養ケア・ステーション

人材の供給・参画
配食の栄養管理等

栄養CS→事業者
配食ガイドラインに
沿った適正な栄養
管理への助言

一括配送により、
個々の自宅に配送
するよりも
配送料が安価に



ガイド
ライン

配食事業者

共食の場 提供型



管理栄養士等
栄養ケア・ステーション

配食事業 完結型



管理栄養士等
栄養ケア・ステーション

栄養CSにおいて、
フレイル予防教育
や個別栄養相談、
配食の栄養管理の
全ての事業が完結

一括配送により、
個々の自宅に配送
するよりも
配送料が安価に



ガイド
ライン

配食事業者

栄養CSで実施場所の確保はできるが、配食は事業者から調達、配食事業者への適正な栄養管理への助言はできる

事例紹介動画
はこちら

